

第 11(12) 回各出張所管内河川レンジャー運営会議 議事概要

	第 11 回福島・毛馬管内 運営会議	第 11 回枚方管内運営 会議	第 12 回高槻・山崎 (大阪) 管内運営会議	第 11 回伏見桂川山崎 (京都) 管内運営会議	第 11 回木津川管内運 営会議
開催日時, 場所	平成 23 年 2 月 23 日 (水)14:00~17:00 OMM ビル 13F 河川環 境管理財団会議室	平成 23 年 2 月 10 日 (木)14:00~16:40 中央流域センター2F 多目的ホール	平成 23 年 2 月 22 日 (火)10:30~12:15 中央流域センター2F 多目的ホール	平成 23 年 2 月 17 日 (木)10:00~11:25 上流域流域センター 2F 会議室	平成 23 年 2 月 21 日 (月)14:00~16:00 京田辺商工会館 CIK ビル 4 階研修ホール
出席者	見識者 2 名 河川レンジャー 4 名 新規河川レンジャー 1 名 自治体 4 名 出張所長 2 名 事務局 8 名	見識者 3 名 河川レンジャー 5 名 自治体 3 名 出張所長 1 名 事務局 8 名	見識者 2 名 河川レンジャー 5 名 自治体 4 名 出張所長 2 名 事務局 11 名	見識者 4 名 河川レンジャー 7 名 自治体 6 名 出張所長 3 名 事務局 11 名	見識者 2 名 河川レンジャー 2 名 新規河川レンジャー 2 名 自治体 4 名 出張所長 1 名 事務局 8 名
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度 河川レンジャー年間活動計画 ・平成 23 年度 新規河川レンジャー展開計画 ・運営会議代表者について ・運営会議代表河川レンジャーについて 				
事務局強化	運営要領を一部改正し、運営会議等の事務局機能強化のため、レンジャー会議事務局が諸会議の事務局に加わる。今後、運営業受託者は、会議資料の作成補助などで協力を行う。				
レンジャーの 任期に関して	・1 期目までの任期満了者に対する再任の妥当性についての審議の結果、試行期間のレンジャー 2 名の再任が決定した。	・1 期目までの任期満了者に対する再任の妥当性についての審議の結果、レンジャー 2 名の再任 (2 期目) が決定した。	・1 期目までの任期満了者に対する再任の妥当性についての審議の結果、試行期間のレンジャー 1 名の再任及びレンジャー 2 名の再任 (2 期目) が決定した。	・1 期目までの任期満了者に対する再任の妥当性についての審議の結果、レンジャー 1 名の再任 (2 期目) が決定した。	・該当者なし
2 期 5 年間河川 レンジャー満 了者について	・代表者会議で特例再任者 1 名が決定されるとともに、任期満了者による「専門家会議」が今後準備会の開催を経て、設置されることが報告された。	・代表者会議で特例再任者 1 名が決定されるとともに、任期満了者による「専門家会議」が今後準備会の開催を経て、設置されることが報告された。	・代表者会議で特例再任者 1 名が決定されるとともに、任期満了者による「専門家会議」が今後準備会の開催を経て、設置されることが報告された。	・代表者会議で特例再任者 1 名が決定されるとともに、任期満了者による「専門家会議」が今後準備会の開催を経て、設置されることが報告された。	・代表者会議で特例再任者 1 名が決定されるとともに、任期満了者による「専門家会議」が今後準備会の開催を経て、設置されることが報告された。
活動報告につ いて	・ヨシ刈りの活動時には危険が伴うため、レンジャー自身で近隣の消防署や警察に事前に連絡をしておくことが必要である。 ・淀川付近の阪神高速のジャンクション工事が始まり、カモが減少したようだ。オオタカの出没により、更にカモが分散	・清掃活動で収集されたゴミの分析はどうか。 →JEAN (環境 NGO) に分析を依頼している。JEAN では年間の統計を取り、行政にデータを提供している。 ・ペットボトルが袋詰になって草むらに捨てられている。活動参	・レンジャー活動について、川を大切に楽しみながら参加される方に満足してもらおうという視点が大事。 ・河川レンジャーの活動の一つとして、身障者を対象とした活動は、新しい試みであり、今後も継続が望まれる。	・これまで宇治橋下流右岸の河川敷で冬鳥の観察会を年度計画・実施してきたが、昨年度、今年度の 2 度活動実施時期と当該地での河川工事が重なり、昨年度はなんとか実施できたが今年については急遽実施場所の変更が生じ	・タイワンシジミが支流で大量に発生しているが、沿川自治体関係者から上流部のダムなどで餌となる物が発生しているのではないかという意見がでている。 ・ホテル保全のため、自治体による河川改修への対応について

	第11回福島・毛馬管内運営会議	第11回枚方管内運営会議	第12回高槻・山崎(大阪)管内運営会議	第11回伏見桂川山崎(京都)管内運営会議	第11回木津川管内運営会議
	<p>している。コハクチョウが10数年ぶりに淀川河口で確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国交省の河川パトロールカーは、活動中の事故に対して出動が可能か。高齢者や小さな子供も活動に参加しており、緊急時に備えパトロールカーがあると、安心感がある。 <p>→出動可能である。平日は、パトロール巡視員が常駐しているが、レンジャー活動が行われることが多い土日にはタイムロスが大きいと考えられる。</p>	<p>加者が捨てていることが考えられ、参加者や地元の人に周知し、本人の「気づき」を促すような啓発活動が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高水敷が固定化され、淀川の植生が近年変化してきている。例えばセリは淀川にはあまり見つからない。 ・カラヨモギはワンドなどの整備に有効なのかなと思う。 ・外来植物ナガエツルノゲイトウ駆除活動では、総量7tにも登ったが、水際から陸へ引き上げる際には、その重さに苦労した。 ・点野ワンドにはミズヒマワリが最近増えてきている。 ・河川レンジャーが水辺整備に関与し、親水空間を整備するなど考えられないか。対岸の三島江地区と同じようなことを今後考えたい。 ・城北ワンドなどの石積みの中にある外来植物の駆除は非常に苦労する。整備の段階で十分考慮しなければならないのではないか。 ・淀川では環境の変化にともない、さまざまな植物や動物の分布が見られる。これらに配慮した環境の保全を考えていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水際に繁茂する植物、樹木等により視界が遮られ、身障者が川を見たいという要望を満足出来なかったことが課題。 ・河川を見ながら安全を啓発する活動は、レンジャー活動の中でも一層の検討が必要であり、今後のテーマである。 ・河川管理面の課題として、いろいろな住民からの情報提供をどのように河川管理者に伝えていくかが課題である。 ・各出張所が窓口となっているが、レンジャー活動の一番の障害は行政の縦割りの弊害である。 ・河川レンジャーは行政と住民の橋渡しの役割だが、土日の活動には地域を代表する方が多く参加しており、出来るだけ淀川河川事務所職員にも活動に参加して地域との連携をはかってほしい。 ・レンジャーの活動は基本的には淀川となっているが、もっと広い地域での活動がやりやすいように自治体や自治会等との連携が必要。 	<p>た。</p> <p>こういった情報の共有は早いほど以降の調整もスムーズになるので、十分な配慮が必要。</p>	<p>情報交換が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政関係者には河川レンジャーの活動をもっと知ってもらう必要がある。

	第11回福島・毛馬管内運営会議	第11回枚方管内運営会議	第12回高槻・山崎(大阪)管内運営会議	第11回伏見桂川山崎(京都)管内運営会議	第11回木津川管内運営会議
活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への参加者を増やして行くためにどのようなことができるか、淀川流域全体の共通のテーマとして考えなければならぬ。 ・社会貢献活動として淀川環境を守る活動をしている企業がある。今後、レンジャー事務局と相談し、連携をはかって行きたい。 ・地域連携活動として、地域住民や企業等のあらゆる主体が参加出来るような河川の美化活動を行いたい。 ・レンジャーが協力しあい、河川への住民の呼び込めるよう検討していきたい。 ・幅広い層の参加者を集めることが重要。 ・淀川の魅力を深めるという観点から、清掃活動はレンジャー活動本来の目的の一つである。 ・環境、防災(災害に強い町づくり)や次世代に引き継がれるような活動を行い、新しい人づくりを行いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・枚方管内の河川レンジャー活動の広報について、枚方市役所の環境保全課と調整していきたい。 ・その他、淀川河川事務所から沿川自治体に協力の要請を行うことが必要。 ・枚方市の広報は、イベントについては選別されて載らないこともあるので、枚方環境ネットを利用し広報している。 ・参加者を増やすためのネットワークづくりについては、インターネットの他、人との直接的な会話が特に重要な手段である。 ・河川に関心を持ってもらえるような広報が一番大事である。同じパターンでの広報では新たな参加者が増えない。異なったパターンの発想が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者増加へ向けた取り組みはどうか。→地域の代表者と繋がりを持つことが大変である。 ・参加者数が増えすぎると個々の意見が聞けないため、20人ぐらいが適当だと考えられる。 ・レンジャー個々の特性を活かした活動が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月と11月に大きな活動(濠川のクリーン作戦と東高瀬川の菜の花プロジェクト)が重なっているのが心配である。無理のない活動を望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バッタのオリンピック観察会は面白い取り組みだが、木津川のカワラバッタは貴重種であり、乱獲には注意が必要。 ・八幡市の洛南環境祭や同時期の洛南下水祭について、河川レンジャーには是非参加して欲しい。 ・京田辺市で硝酸イオンが8ppmと観測されており、農薬との因果関係を調査したい。あわせて木津川支流も調査したい。 ・精華町の環境ネットワークと繋がりを持つことができた。 ・城陽市には17年間の支川の水質調査結果があるので、参考にしてほしい。 ・自分で調査することも必要だが、既存のデータを活用することも必要。 ・自治体には、レンジャー活動をもっとアピールしてほしい。
展開計画について	特に意見なし	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦人数1名について、現レンジャーの任期から見て、1年間は実質4名体制となることを考慮して、もう少し増員してはどうか。流域全体(各管内)でも同様のことがいえるのではないかと。 →一つの出張所で考えると、枠ができた場合は、その考え方は可能ではないかと。レンジャーの採用についても今後考えていかなければならない。 	特に意見なし	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治川流域では2名が、桂川、山崎管内では3名のレンジャーを新たに推薦されることとなっているが、実質的な活動は再来年になるため、退任する河川レンジャーには今後も支援してほしい。 ・沿川自治体へは、新規のレンジャーさんを可能な限り推薦してほしい。 	特に意見なし